



23 かたみ 松井昇

明治二十八年（八九五） 油彩・カンヴァス
 一一二・二×八八・〇

松井昇（一八五四～一九三三）は、安政元年但馬国出石（現在の兵庫県豊岡市出石町）に生まれ、明治に入ると上京して川上冬崖の画塾・聴香読画館で絵を学んだ。その後、工部美術学校に不満を抱いて退学した浅井忠らが明治十一年に結成した十一会に参加し、明治二十二年の明治美術会創立には発起人の一人として加わった。以後、同会を中心に作画活動を行った。

本図は、明治二十八年の第四回内国勸業博覧会に、「柳塘春色図」とともに出品されたもの。この時本図は宮内省買上となり、もう一図によって褒状を受けた。題名が示すように、本図には日清戦争において戦死した主人の遺品を前に、悲しみにくれる一家の姿が描かれている。喪服に身を包んだ妻は夫を失った悲しみに耐えながら、泣きじやくる娘、それとは対照的にじつと一点を見つめて必死に悲しみをこらえる息子に、なぐさめの眼差しを向けている。深く沈み込んだ色合いの壁が沈鬱な雰囲気醸し出し、それぞれの人物の表情は過剰な演出を避け、抑制された描写が逆に深い悲しみを見る者に感じさせる。画面左下に「松井昇／明治乙未春日作此図／時旅順大捷後月餘」のサインが記されている。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に¹出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

近代の洋画家、創作の眼差し

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 52

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 横溝廣子

発行 宮内庁

平成二十二年十月三十日発行

© 2010, The Museum of the Imperial Collections